

新潟県立柏崎高等学校 KSPルーブリック評価基準(ICE型)

それぞれの観点において、当てはまる事柄(文章)にすべて○を付けてください(複数回答可)。

到達目標		1学年	●			合計(○の数)				
		2学年	●							
学力伸長段階		I (Ideas) -アイデア-		C (Connections) -つながり-		E (Extensions) -応用-				
		(○1個につき1点)		(○1個につき1点)		(○1個につき1点)				
観点別評価	資育KSP 能力で	ICE評価の概念	知識の蓄積や基礎技術の習得、情報収集ができていますか？ 	複数の事柄を関係付けて考えることができますか？知識と日常生活での経験をつなげることができますか？ 	根拠を持って予測を立てられていますか？今までの知識を総動員して、未知の課題に論理的に取り組んでいますか？ 			1学年	2学年	3学年
知識・技能	探究基礎力	クリティカルシンキング 仮説思考 チームビルディング	クリティカルシンキングや仮説思考、チームビルディングなどの考え方や基礎知識を学んだ。	クリティカルシンキングや仮説思考、チームビルディングの基礎知識や考え方を研究活動に活かそうと積極的に意識した。	クリティカルシンキングや仮説思考、チームビルディングの基礎知識や考え方が身につけており、意識しなくても研究活動に活用できる。					
主体的に学習に取り組む態度	情報収集力	課題発見力	物事について疑問や問いを持ち、現状分析や先行研究調査等により、研究課題とその目的を見つけることができる。	研究課題の目的や意義について、現状分析や先行研究調査または日常生活や社会等と関連付けて説明することができる。	社会的、学問的に意義のある研究課題と目的を設定できており、その意義を説明できる。					
		研究推進力	研究課題について、仮説を立て、その検証のため、フィールドワークや観察実験、文献資料調査等により、積極的に情報収集活動を行うことができる。	これまで培った知識はもちろん、新しい知識も積極的に吸収・活用して研究を進めることができる。	積極的に大学や企業など外部の英知を借りて研究を進めることができる。					
思考・判断・表現	論理的思考力	検証・考察力	収集したデータを整理→分析することで、仮説の客観的根拠や新しい価値となる有用な情報を取り出すことができる。	仮説の確かさを向上させるためのデータの質・量が適当であり、客観的根拠に基づいて仮説の検証がなされている。	仮説の確かさを向上させるためのデータの質・量とも優れており、説得力のある考察により仮説の検証がなされている。					
		研究総括力	情報収集の結果や考察から客観的根拠をもとに結論を導くことができる。	他者への説得力のある結論を導くことができる。	今後の発展や応用が期待できる結論が導かれている。					
	表現力	プレゼンテーション力 (コミュニケーション力)	研究内容を十分に理解し、聴き手に敬意を持ち、大きな声で簡潔にわかりやすく説明できる。	聴き手にわかりやすい発表であり、質疑応答でも適切に受け答えができる。	聴き手の興味をそそる発表であり、質疑応答でも堂々と受け答えしている。					
情報発信力		他者に見やすく、わかりやすいポスターやプレゼンテーション資料を作成できる。	他者の目を惹きつけるデザインのポスターやプレゼンテーション資料を作成できる。	デザイン・内容とも他者の興味・関心を惹きつけるプレゼンテーション資料、ポスター、論文を作成できる。						